

成長戦略研究センター主催の「みなとみらい産官学ラウンドテーブル」第13回セミナーが2011年7月21日にランドマークタワーに於いて開催されました。

成長戦略研究センターは「知の交流・蓄積・創造・還流の場」を産官学の関係者に提供する事を目指して公開セミナーを開催しています。これまで「キヤノンの成長戦略」、「日産自動車の成長戦略」、「東芝の経営戦略」、「コマツの成長戦略」、「TDKの成長戦略」、「成長戦略のためのバランス・スコアカード」、「経済予測の活用法」、「半導体型産業の組織イノベーション」、「プラス思考の事業再生」(2010年1月)、「ゼロエミッションリーダーシップに向けた日産自動車の取組み」(6月)、「臥龍企業の海外進出」(8月)、「世界経済は二番底を回避できるか?」(2011年1月)を開催してきました。3月の東日本を襲った震災で間が空きましたが

今回は「持続型社会を担うグリーン水素」と題し、横浜国立大学グリーン水素研究センターの太田健一郎名誉教授より再生可能エネルギーによる水素循環社会について御講演を頂きました。福島原発停止により多様なエネルギー源へのシフトが求められる状況下、大変時機を得たテーマで、CO2排出削減の観点から脱化石燃料、安全性の観点から原子力への依存をミニマムにとのニーズの中で、南米パタゴニアで風力発電から水素製造についての実証実験に基づき、製造・保管・輸送技術面には目途が付き、コスト低減による普及の可能性が解説されました。

当日はエネルギー関係者等約25名の参加者があり、セミナーの最後には燃料電池自動車と電気自動車の比較や、社会的安全利用技術といった点に関し活発な質疑応答も行われました。

